

平成21年10月30日公表

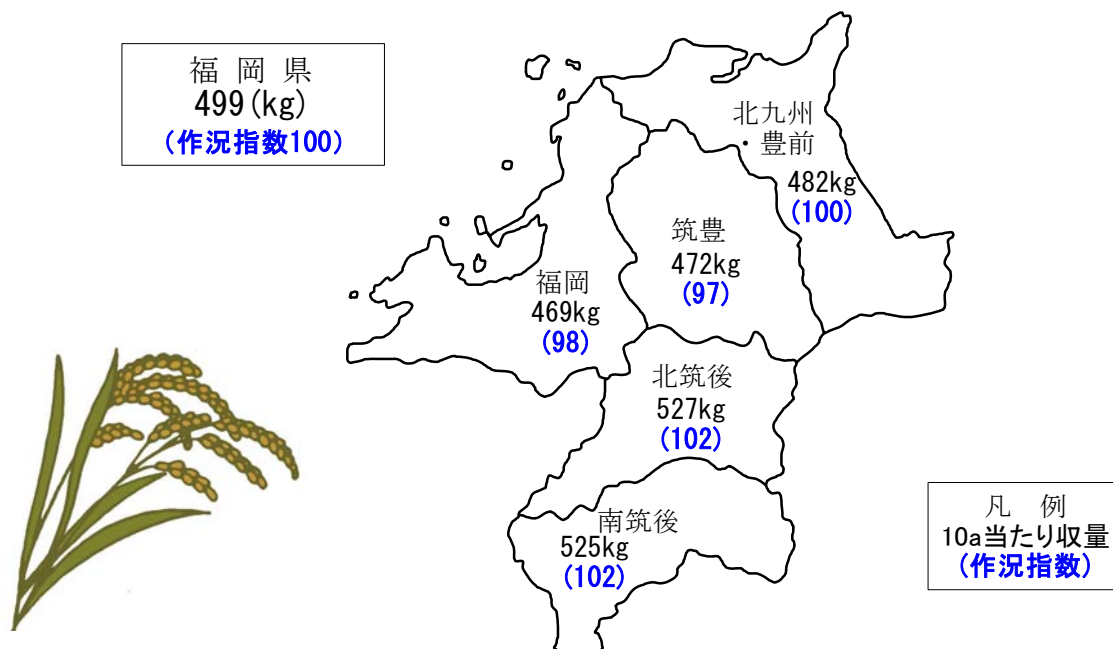
平成21年産水稻の作付面積及び予想収穫量（福岡県） （10月15日現在）

－ 10a 当たり予想収量は499kg（作況指数100）の見込み －

【調査結果の概要】

- 平成21年産水稻の作付面積（子実用）は3万9,400haで、前年産に比べて200ha（前年産対比1%）減少しました。
うち、主食用作付見込面積は、3万9,000haが見込まれます。
- 10月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数が平年よりやや少なかったものの、登熟が平年をやや上回ったことから、10a 当たり予想収量は499kg（作況指数100）が見込まれます。
- 作付面積（子実用）に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（子実用）は19万6,600tが見込まれます。
また、主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は19万4,600tが見込まれます。

図 平成21年産作柄表示地帯別10a 当たり予想収量（10月15日現在）



- 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積です。
- 主食用作付見込面積とは、作付面積（青刈り面積を含む）から、生産調整カウントとなる米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）です。
- 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり（予想）収量の比率です。
- 調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終わっていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

表1 平成21年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

区 分	作付面積 (子実用) ①	前年産との比較		10 a 当たり 予想収量 ②	予想収穫量 (子実用) ③=①×②	前年産との比較		参 考			
		対差	対比			対差	対比	主食用 作付見込 面積 ④	予想収穫量 (主食用) ⑤=④×②	10 a 当たり 平年収量 ⑥	作 況 指 数 ⑦=②/⑥
福 岡 県	39 400	△ 200	99	499	196 600	△1 800	99	39 000	194 600	499	100
福 岡	6 370	△ 30	100	469	29 900	△1 200	96	…	…	481	98
北九州・豊前	7 620	30	100	482	36 700	△ 500	99	…	…	481	100
筑 豊	6 830	△ 30	100	472	32 200	△1 300	96	…	…	485	97
北 筑 後	10 300	△ 100	99	527	54 300	500	101	…	…	519	102
南 筑 後	8 270	△ 90	99	525	43 400	600	101	…	…	517	102

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積です。

2 主食用作付見込面積とは、作付面積(青刈り面積を含む) から、加工用米、新規需要米等の面積を除いた面積（見込み）です。

【調査結果】

- 平成21年産水稻の作付面積（子実用）は3万9,400ha で、生産調整の推進等により前年産に比べて200ha（前年産対比1%）減少しました。
うち、主食用作付見込面積は3万9,000haが見込まれます。
- 10月15日現在における水稻の作柄については、1穂当たりもみ数が平年に比べやや多くなったものの、穂数が7月の日照不足の影響により平年に比べかなり少なくなったことから、全もみ数は平年に比べやや少なくなりました。
登熟は、出穂期以降が好天に恵まれたことから良好に推移しており、平年に比べやや良が見込まれます。
この結果、10 a 当たり予想収量は499kg（作況指数100）が見込まれます。
なお、本年の作柄は、地域や作付品種による差が大きくなっています。
- 以上の結果、予想収穫量（子実用）は19万6,600 tが見込まれます。
また、主食用作付見込面積に10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用) は19万4,600 tが見込まれます。

表2 平成21年産水稻の作柄概況（10月15日現在）

区 分	穂 数 の 多 少	1 も み 数 の 多 り 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否	刈 取 期				刈 取 済 面 積 割 合	
					始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較		
								平 年 比 較		前 年 比 較
県 平 均	少ない	やや多い	やや少ない	やや良	9. 2	10. 4	…	並み	並み	85
福 岡	少ない	平年並み	少ない	良	8. 29	10. 10	…	1日遅い	2日遅い	88
北九州・豊前	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	8. 25	9. 19	…	1日早い	並み	92
筑 豊	やや少ない	やや少ない	少ない	やや良	8. 25	9. 21	…	1日早い	2日早い	92
北 筑 後	少ない	多い	平年並み	やや良	9. 20	10. 11	…	1日早い	1日早い	81
南 筑 後	少ない	多い	やや少ない	やや良	9. 21	10. 11	…	1日早い	2日早い	77

注：1 表中における「…」は、10月15日現在で期日に達していないことを示します。

2 刈取期の始期とは刈取済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

【関連するデータ、情報】

《参考 1》

平成21年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a 当たり予想収量内訳（概数値）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm 以上で選別された玄米の重量としています（《参考3》参照）。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、刈取り済みの地域について、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a 当たり収量の概数値を示すと次のとおりです。

単位 { 重量割合：%
平均対差：ポイント

区分 地帯別	合計	ふるい目幅						
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm	
県平均								
重量割合	本年値	100.0	67.5	20.5	5.0	3.4	2.3	1.3
	平均対差		9.9	△ 6.7	△ 1.9	△ 0.7	0.0	△ 0.6
福岡								
重量割合	本年値	100.0	69.0	19.4	4.6	3.1	2.5	1.4
	平均対差		6.4	△ 5.3	△ 0.9	△ 0.3	0.5	△ 0.4
北九州・豊前								
重量割合	本年値	100.0	79.3	12.8	3.0	2.1	1.8	1.0
	平均対差		14.2	△ 9.9	△ 2.7	△ 1.1	0.0	△ 0.5
筑豊								
重量割合	本年値	100.0	79.4	13.0	2.7	2.4	1.5	1.0
	平均対差		8.1	△ 5.6	△ 2.2	0.1	△ 0.1	△ 0.3
北筑後								
重量割合	本年値	100.0	60.5	25.1	6.6	3.9	2.5	1.4
	平均対差		10.3	△ 6.9	△ 0.7	△ 1.5	△ 0.4	△ 0.8
南筑後								
重量割合	本年値	100.0	55.1	28.3	7.0	4.8	3.1	1.7
	平均対差		13.4	△ 8.0	△ 4.0	△ 0.8	0.2	△ 0.9

単位：kg

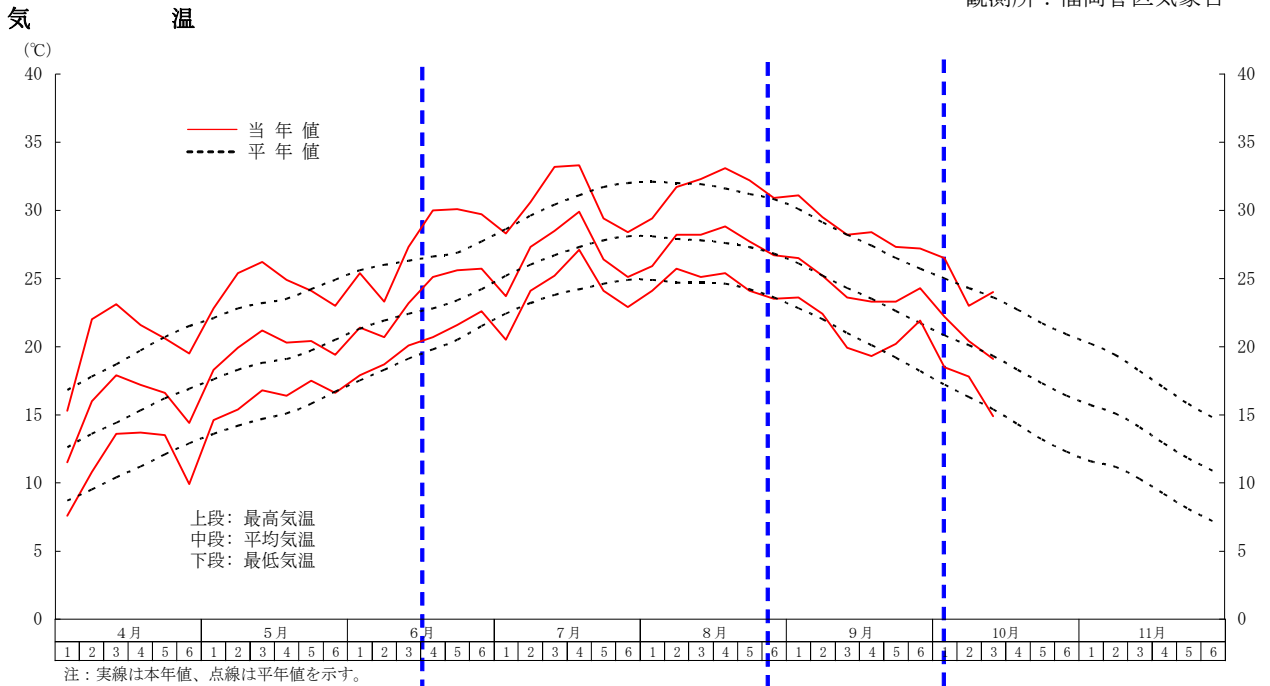
区分 地帯別	10a当たり 予想収量 (1.70mm選別)	選別ふるい目幅別10a 当たり収量				
		2.00mm 選別	1.90mm 選別	1.85mm 選別	1.80mm 選別	1.75mm 選別
県平均	499	337	439	464	481	493
福岡	469	324	415	436	451	462
北九州・豊前	482	382	444	458	469	477
筑豊	472	375	436	449	460	467
北筑後	527	319	451	486	506	520
南筑後	525	289	438	475	500	516

- 注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5カ年の重量割合の平均値です。
 2 選別ふるい目幅別10a 当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a 当たり収量のことです。
 3 台風等により未熟粒・被害粒の混入が多く農作物規格規程三等の品位に達していない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

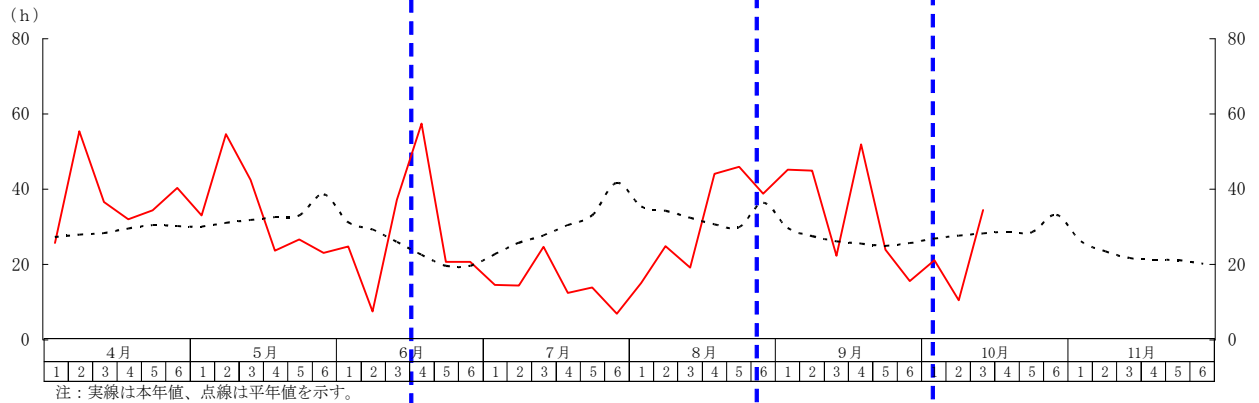
《参考 2》

気象図 (4月第1半旬～10月第3半旬)

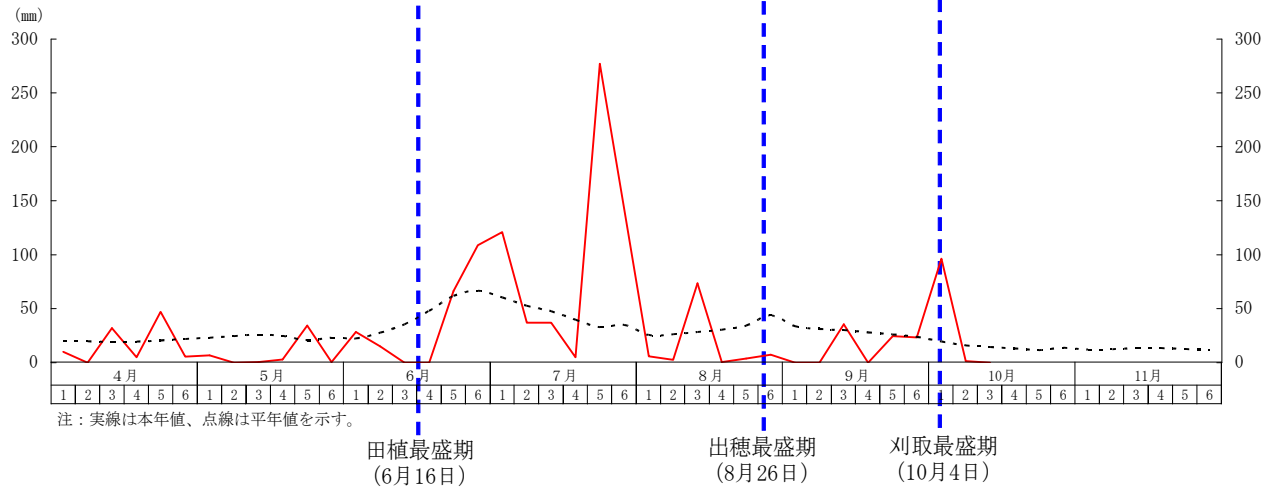
観測所：福岡管区气象台



日照時間

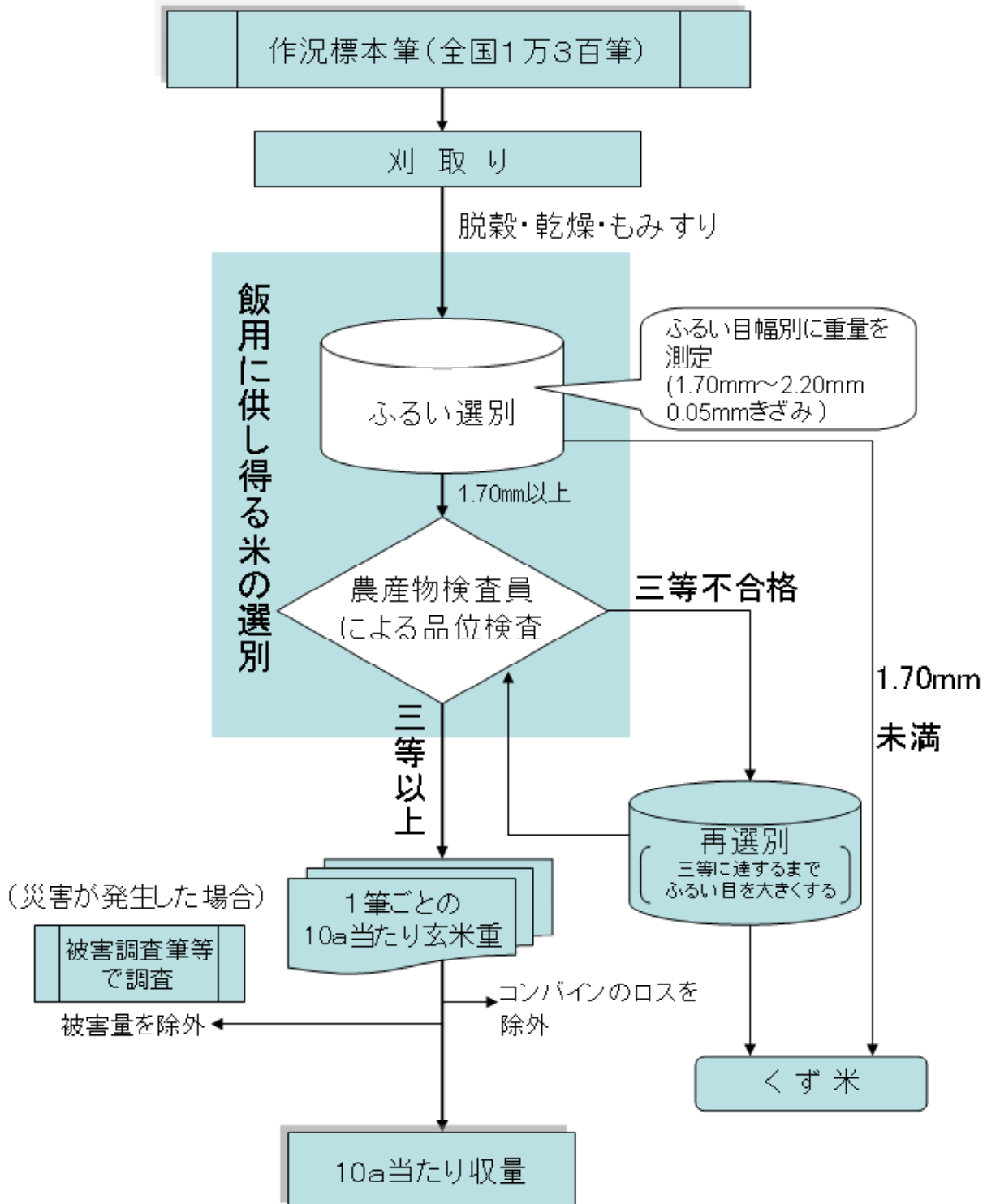


降水量



収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



《参考 4》

水稲の年次別推移（福岡県）

年 産	作 付 面 積 (子実用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	作 指 況 数	10 a 当 たり 平 年 収 量
	ha	kg	t		kg
昭.54	68 700	516	354 500	106	486
55	65 100	418	272 100	85	489
56	61 400	522	320 500	107	489
57	60 700	470	285 300	96	489
58	61 100	467	285 300	96	489
59	61 700	509	314 100	104	489
60	62 200	431	268 100	88	489
61	60 900	516	314 200	106	489
62	56 000	453	253 700	93	489
63	54 300	514	279 100	105	489
平.元	53 500	506	270 700	103	489
2	52 700	490	258 200	100	489
3	51 500	350	180 300	72	489
4	53 700	477	256 100	98	489
5	54 200	363	196 700	74	489
6	55 900	545	304 700	111	489
7	53 300	505	269 200	103	489
8	48 500	509	246 900	104	489
9	47 700	479	228 500	99	486
10	43 600	503	219 300	103	486
11	43 100	431	185 800	88	489
12	42 600	515	219 400	104	493
13	40 900	515	210 600	104	493
14	40 600	511	207 500	103	497
15	40 400	483	195 100	97	500
16	42 100	415	174 700	83	500
17	41 600	482	200 500	96	501
18	41 200	382	157 400	76	501
19	40 000	485	194 000	97	501
20	39 600	501	198 400	100	499

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稻調査の中の予想収穫量調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況・予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：979単位区 巡回・見積り：66市町村

(2) 予想収穫量調査

作況標本筆：260筆 作況基準筆：36筆 巡回・見積り：66市町村

3 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

4 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：10月15日現在

5 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行いました。

(2) 予想収穫量調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積り調査により行いました。

6 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。

(2) 予想収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

7 作柄表示地帯区分

福岡	福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、前原市、古賀市、福津市 筑紫郡、糟屋郡、糸島郡
北九州・豊前	北九州市、行橋市、豊前市、中間市、遠賀郡、京都郡、築上郡
筑豊	直方市、飯塚市、田川市、宮若市、嘉麻市、鞍手郡、嘉穂郡、田川郡
北筑後	久留米市、小郡市、うきは市、朝倉市、朝倉郡、三井郡
南筑後	大牟田市、柳川市、八女市、筑後市、大川市、みやま市、三潁郡、八女郡

8 用語の解説

- (1) 青刈りとは、子実の生産以前に刈り取られるもので、飼肥料用などとして用いられるものです。
なお、青刈りには、稲発酵粗飼料(ホールクロップサイレージ)、わら専用稲を含みます。
- (2) 「穂数の多少」は、1㎡当りに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (6) 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素(1㎡当たり穂数等)の平年値との比較です。

多 少 (良否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95~98%	99~101%	102~105%	106%以上

- (7) 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。
- (8) 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

9 利用上の注意

収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。

したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

【ホームページ掲載案内】

この統計調査結果は、九州農政局ホームページ福岡農政事務所コーナーに掲載しています。【<http://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/index.html>】

問い合わせ先

- ◎本統計調査結果について
九州農政局 福岡農政事務所 統計部 生産流通消費統計課
担当：生産統計係 箕田
電話(代) 092-281-8261(内線353)
- ◎農林水産統計全般について
九州農政局 福岡農政事務所 統計部 統計企画課
電話(代) 092-281-8261(内線548)